独　標

西東京市立ひばりが丘中学校
第１学年
第３０号
令和５年１０月２５日発行

下野谷遺跡バーチャル体験

１０月２３日は、西東京市ふるさと探求学習の一環として、また郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度を培う道徳的な内容を目的として、下野谷遺跡のバーチャル体験を行いました。２１日（土）に放送された「アド街ック天国」でも紹介された下野谷遺跡の学芸員さんのお話は興味深く、タブレットを使ったバーチャル体験は、縄文時代の村人の気分を味わえました。こんな素晴らしい遺跡が西東京市にあることは、とても誇らしいことですね。興味をもった人は、資料館に出向いたりして、さらに探求をしてみてください。

合唱祭の作文紹介その２

＜敬称略＞

「合唱祭で学んだこと」

Ｂ組

僕は、合唱祭で学べたことは三つあります。

はじめに、言葉の伝え方です。僕はパートリーダーを任せてもらっていたので、課題や意識することをみんなで共有する必要がありました。しかし、言い方が悪くては、本来の主旨とずれて伝わったり、相手が不快な思いをしてしまったりする恐れがあります。だから、謙虚に聞いてもらえるようにするのが大事だと思います。上手くいかず、ついイライラして強い言い方をしてしまい、後悔してしまうこともありましたが、「文句」ではなく、プラスな影響を与える「アドバイス」を発信していけるようになりたいです。

次に、クラスとして団結できる良さです。日が近づくにつれ、たがいに意見を出し合うなどまとまっていく感覚は最高でした。リハーサルでできなかったことに対して、悔しい思いをもてたのは、それだけこだわれていた証拠だと思います。「勝つ」とみんなで同じ方向を向いて協力しあえてよかったです。

最後に、指揮者として一つのことに熱中できる面白さについてです。自ら志願してやったので、責任と誇りをもって、臨んでいました。中々うまくいかず、練習をしなくなったときもありました。それでも中学生になってから、色々チャレンジしようと心に決めた以上、諦めたくありませんでした。本番はとても

緊張しましたが、大きなミスなく終え、やりがいを感じ、達成感を得られました。少しでもクラスに貢献できたなら嬉しいです。

クラスメイトが、「結果云々はさておき、とりあえず楽しかった」と言っていたのが印象的でした。笑顔で終えられたこと、練習の成果が最優秀賞という形で結ばれたことから、合唱祭は楽しい思い出になりました。先輩たちに追いつけるよう、学べたことを活かして日ごろの生活から頑張ります。

「背中をおす歌声に」

Ｂ組

合唱祭を通して、私は何度も背中をおされた。

合唱祭に向けて本格的に練習がはじまった時、１年生５クラスの中で、Ｂ組が一番声が出ていなかった。そんな中選んだ自由曲は、１年生の自由曲の中で一番難しい曲だった。歌う側は体力が必要で、伴奏も大変。そんな曲を私たちは歌えるのか不安でいっぱいだった。文化行事委員として、みんなをひっぱっていけるのか、みんなの思い出に残る合唱祭にできるのか。不安でいっぱいだった私の背中をおしてくれたのはＢ組の歌声だった。

練習を重ねていくうちにＢ組はどんどん声がでるようになってきた。みんなが楽しそうに歌っているところを見ていると、「私も、もっとがんばろう。」そう思えた。

しかし、声がでるようになった時のリハーサル。はじめてステージで歌う時、みんなの声は小さくなっていた。はじめてのステージ、みんなに聞いてもらう時、リハーサルは３回ほどあったが、どの時間もみんな声があまりでていなかった。本番はもっとたくさんの人達が私達の歌を聴きにくる。私が、背中をおされた歌声をたくさんの人に聴いてもらいたかった。最後の合唱練習。みんなの声はしっかり聴こえるかとっても不安だったが、各パートリーダーや指揮者が「自信をもって歌う。」とみんなに言っていた。その言葉にまた背中をおされた。

体育館で開会を待っていた時、男子は割と緊張していなさそうだったが、女子は少し顔がくもっていた。文化行事委員としての最後の声かけ。伝言ゲームのように伝えた言葉は「You Can Do It。」

そしてステージで聴いた声は、今までで一番声がでていた。それは確かに私の背中をおした歌声だった。その歌声は最優秀賞をとった。みんなと歌えてよかった。みんなの歌声のように私もだれかの背中をおせる人になりたい。